

仏教とお寺をやさしく解説

さんが

Saiganji Sainomiyako Memorial Park News

2023年3月
第52号
(年4回発行)

春号

発行部数3千部



おさらい 春から初夏の仏教行事
シリーズ浄土宗／回向と供養
実践教室／お仏壇の三具足の意味
春彼岸会◆山門大施餓鬼会 のご案内

おさらい

春から初夏の仏教行事

仏教寺院では宗派によって異なりますが、一年を通して様々な仏教行事が執り行われます。三月には春の彼岸会法要、四月には灌仏会、また五月ごろから夏にかけて施餓鬼会法要を営む寺院も多くあります。

それぞれの行事についておさらいしてみましよう。



三月（春彼岸会 3月18日～24日）

問 「暑さ寒さも彼岸まで」という言葉にあるように、なぜ季節の区切りである春分の日、秋分の日をお彼岸とされるのでしょうか？

答 春分と秋分は、太陽が真東から昇り真西に沈む昼と夜の時間が等しい昼夜等分の日になります。そのことから仏教の中道の教えにちなんで行われるといわれています。また、浄土宗のよりどころとする浄土三部経の『観無量寿経』の日想観に基づき、真西に沈む太陽から極楽浄土を思い浮かべることから等ともされています。

問 春のお彼岸は春分の日を中心に前後三日間（今年は3月18日から24日）を彼岸会としますが何をするための期間なのですか？

答 彼岸は正しくは到彼岸といい、原点を超える・渡るという意味のサンスクリット語パラミター（波羅蜜多）からきています。そこから、現実の世界である此の迷いの岸から、理想の世界である彼の悟りの岸へ渡るための六つの修行（布施・持戒・忍辱・精進・禪定・知恵）である六波羅蜜を实践するための期間です。

四月（灌仏会・花まつり）

4月8日

問 四月になると花まつりがあります
が、その由来を教えてください。

答 花まつりは、灌仏会や降誕会ともいい仏教を開かれたお釈迦さまの誕生をお祝いする行事です。お釈迦さまは、北インドの実在する人物ですが、存命していた時代については、紀元前七世紀や紀元前六世紀、紀元前五世紀など様々な説があり正確な生没年は分かっていません。灌仏会では、お釈迦さまの誕生の地であるルンビニーの花園を表した花御堂の中央にお釈迦さまの誕生仏を安置し、仏頂に甘茶を注ぎます。歴史は古く、唐の時代の中国僧・義浄や法顕は、インドの灌仏会の様子を詳しく記録しています。

日本では、推古天皇十四（606）年に奈良の元興寺で行ったのがはじまりと言われています。

問 お釈迦さまの誕生仏の姿は天と地を指差し「天上天下唯我独尊」と宣言された様子だそうです。どのような意味でしょうか。

答 仏教の精神を宣言したものです。天上天下は、この世の中のことです。私という存在は唯我独尊で生きている。つまり、自分という存在は、かけがえないたった一人で、それは尊い命なのだ。そしてそれに気付くとき、他の全ての人々も同じで、全ての命の尊さが自ら分かり、生きとし生けるすべてが尊い存在なのだと思わずにはいられないということです。



五月（西願寺大施餓鬼会法要）

5月25日

問 施餓鬼会法要とは、どのような法要なのでしょう？

答 お施餓鬼は、『救拔焰口餓鬼陀羅尼經』というお経に説かれる阿難尊者の話しに由来しています。施餓鬼はその字の通り「餓鬼道に堕ちて苦しんでいるものに飲食を施し供養する」法要です。供養をした者には多大な善業（徳）が積まれ、その徳は自身の先祖や目的のために振り向けることができると信仰されました。

施餓鬼会法要は、本堂外陣に設けた施餓鬼棚に全ての精霊のための位牌である「三界万霊牌」を置き、浄水や食物を供え法要を営みます。浄土宗の施餓鬼会では、餓鬼だけでなく先祖代々や広く有縁無縁の諸霊を供養し、同時に私たちの福德延寿を願う行事です。

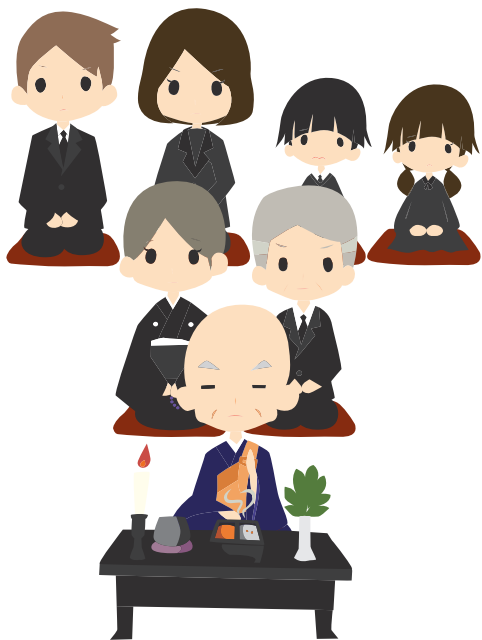
回向と供養



回向という言葉を辞書で引くと

- ① 死者の成仏を願う仏事供養すること。
- ② 自分の修めた功德を他にも差し向け自他ともに悟りを得るための助けをすること。

など出てきます。回向は一般に、自分が積んだ功德を人々に振り向けることを言いますが浄土宗ではどのようなに説いているのでしょうか。



浄土宗では、回向について「お経やお念仏の功德を亡き人のために「回し向ける」ことによって、亡き人もこの世に残された人も共に阿弥陀さまの光明の中にお導き頂くことにな」としています。

回向(廻向)とは梵語ではパリナーマナーと言い「転変」「促進」などの意味を持ち、漢訳が「回向」となります。「回」は回^{えてん}転、「向」は趣^{しめこう}向の意です。

転変や促進は、悟りに向かって進むことや、方向を転じて向かうこととされていますが、これは、自分が積み重ねた善根功德を他に振り向けて与えることをいいます。

では、功德を積むとはどのような事なのでしょう

功德は、よい果報を得られるような善い行いの事を言います。仏教では、供養や布施や供物を供える、読経をするなども功德となります。善い行いを重ねることが功德を積むということなのです。

供養が回向？

供養とは、先祖や故人に心を寄せ、供物をお供えしたり追福を願う法事することなどです。そして、供養を通して得た「徳」をご先祖、故人に回し向けるのが回向です。残された家族が徳を積むことで得られる良い果報は自身のためでもあり、ご先祖さまや今は亡き大切な人のためのものなのです。

お仏壇の

燭台・花瓶・香炉

三つの意味

お仏壇をお参りするときに欠かせない燭台（ろうそく立て）、花瓶、香炉を三具足と言います。お仏壇にあることが当たり前となつていますが、その意味について深く考えることは少ないかもしれません。それぞれにどのような意味を持っているのでしょうか。

ろうそくに火を灯す

灯明にはどんな意味があるのでしょうか。



お灯明は阿弥陀さまの智慧と慈悲の心を表しています。ろうそくの火には闇をなくし、周囲をはっきりと見えるようにする働きがあります。

周囲を明るく照らすその光は、永く深い私たちの心の闇をも一瞬にして破る智慧の光明を意味しています。また、そのぬくもりで固く閉ざした心を解きほぐしてくださる阿弥陀さまの慈悲の心を表していると言われています。

花をお供えする

お仏壇の花瓶に花を生けるといふことは、供華といふ盛華や散華と同じように

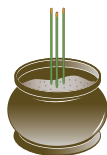


仏さまに花をお供えすることです。仏さまを敬う心、感謝の気持ちからお供えをします。また、仏前にお供えされた仏華は仏さまのお慈悲の心をあらわすとも言われています。

ところで、盛華とは、カゴなどに花びらを盛ること、散華とは摘み取った花びらを空中に舞い上げ散らすものですが、これはお釈迦さまご在世当時から様々あった供華の代表的なものとして知られています。

差別のない

お慈悲の心をあらわすお香



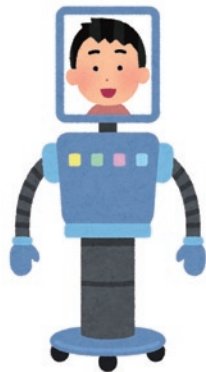
お香は阿弥陀さまの清らかで、誰をも差別することなく滲み渡るお慈悲の心をあらわすお莊嚴です。

あたりを清らかにし、私たちの心身を清々しく安らかにするお香は、お経の中にも、数えきれないほどその徳が説かれています。

暮らしの中の
仏教語

「アバター」

最近、何かと話題の「メタバース」。インターネット上に存在する仮想空間のことで、そこでは、自分自身の分身となる「アバター」と呼ばれるキャラクターが自由に買い物やイベントに参加することもできるのです。目まぐるしい技術の進歩に驚かされますね。さて、この自分のキャラクターとされる「アバター」ですが、サンスクリット語のアヴァターラを語源として、仏教の「権化」や「化身」などの意味を持ちます。新しく聞く言葉でも、また以前から使っていた言葉でも、私たちの周りには、知らずに使っている仏教に関連する言葉が多くあるのですね。



西願寺

大施餓鬼会法要のご案内

施餓鬼会は、西願寺で営む年に一度の大供養法要です。万障お繰り合わせの上、ご出席ご参詣いただき御仏前にご焼香ください。

日時

令和5年5月25日（木）

13時より余興（落語）

14時より法要

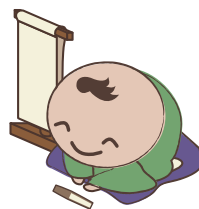
場所 西願寺本堂

施餓鬼会とは、餓鬼道に落ちた亡者に飲食を施すことにより、私たち自身に積まれる功德を、ご先祖さまや亡くなられた大切な人に対し回し向け、先祖追福を願う法要です。



当日は、

六代目三遊亭圓雀師匠の落語を予定しています。皆さまお誘い合わせのうえ足をお運びください。



Q & A

Q 長く親しくしている方がいます。その方は、ご自身の親族とは疎遠らしく、よく「一緒のお墓に入りたいね」と話したりするのですが、血縁がない者同士でも同じお墓に入れますか？

A 結論から申し上げますと。墓地の名義人の方の了承があれば、血縁者でない方でも同じ墓所に埋葬することは出来ます。浄土宗のお墓を見ると墓碑の正面に「俱会一処」の文字が刻まれたお墓も多くあります。「俱会一処」は、仏説阿弥陀經に出てくるご文です。その意味は、私たちがこの世の縁が尽きた時、阿弥陀さまのお働きによって「俱（とも）に一つの処（浄土）で会える」ことを示しています。そこには、どこの誰のと区別する必要も、血縁やしがらみもありません。しかし、お墓はお骨を納めるだけでなく、亡き方を偲びつつ仏縁にあわせて頂く大切な場所でもあります。一般墓地の場合、血縁者でない方の埋葬は、他のご親族の理解を得ることも必要だと思えます。



参加ご希望の方は、お気軽にお問合せ・お申込みください。

西願寺 TEL. 048-925-1723 FAX. 048-925-1789

掲 示 板



ご住所、ご連絡先、名義人などの変更があった場合はお早めに届け出をお願い致します。

●春彼岸会
3月18日(土)～
3月24日(金)

●葬祭フェア開催
3月18日(土) 19日(日)
10:00～

場所▶彩の都 あすま会館

当日は、会場で葬儀についてのご相談やご質問をお受けいたします。お気軽に起こしてください。



※各行事にご参加の方には、マスクの着用をお願いしております。
コロナウィルス感染拡大予防にご協力ください。



■お便り募集■
編集部では皆さまからのお便りを募集しております。仕事の疑問や悩みごと、身近なできごとや日頃感じていること、川柳など、どうぞお気軽にお寄せください。

◆イオ株式会社
西願寺・彩の都メモリアルパーク通信「さんが」編集部
東京都千代田区麹町二・十・三・一〇二
FAX 03 (62655) 1302 Mail: info@io-conet


■次号予告■
次号は令和五年七月発行予定の「夏号」です。

彩の都メモリアルパーク管理事務所 管理費口座引落としのお知らせ

令和5年度分管理費が下記の日程にて口座より引き落としをさせていただきます。口座の残高が不足している場合引き落としが完了しませんのでご確認ください。

第1回引落とし 令和5年3月6日(月)
第2回引落とし 令和5年4月6日(木)
(第1回で引落としが出来なかった方のみ)

※第1回引落としが出来なかった場合は、4月6日に再度引落としの手続きをいたします。



彩の都メモリアルパーク定休日：毎週水曜



◆編集後記◆

西願寺の節分の行事も終わり、いよいよ春を感じる頃となりました。とは言ってもまだまだ寒い日が多い季節ではありますが、紙面では早くも五月の施餓鬼会の事まで掲載されています。浄土宗では、施餓鬼会法要を特に大切に考えられ法要に参列する事自体も回向となるそうです。当日は、お楽しみとして三遊亭圓雀師匠の落語もありますので、是非、皆さん足を運ばれてみては…。

さて、この「さんが春号」の発行は2月。旧暦の2月の呼び方には「木の芽月（このめづき）」という呼び名があります。木々が芽吹く時期という事からきているそう、確かに道端の木を見上げると枝の先に小さな芽が膨らんできていますよね。寒くても季節はちゃんと春に向かっていくのだなあ…。

発行者

遊馬山一行院 西願寺

〒三四〇〇〇〇三二 埼玉県草加市遊馬町四三〇番地

電話 〇四八一九二五一一七三
FAX 〇四八一九二五一一七八九

彩の都メモリアルパーク

〒三四〇〇〇〇三二 埼玉県草加市遊馬町二二六〇一九

電話 〇四八一九二二一四一九四
FAX 〇四八一九二二一四一九五

企画・編集・製作

西願寺 丹羽義昭住職

イオ株式会社 西願寺・彩の都メモリアルパーク通信

「さんが」編集部